

ガクチキ
学校と地域をつなぐ教育広報誌

ガクチキ

第16号

特集

- ・ 狛江第三中学校
- ・ 狛江といえばビーチボール
地域に根付いたスポーツへ



狛江第三中学校 開校50周年記念式典

昭和48年4月に開校した狛江第三中学校は、開校50周年を迎えました。
記念すべき50周年を祝い、記念式典が開催されました。



オープニングセレモニー
卒業生によるバイオリンとピアノの演奏
・狛江第三中学校校歌
・TBS 情熱大陸テーマ曲

開催日時 令和5年11月2日（木）
会場 狛江エコルマホール



全校合唱
・交響曲第9番（ベートヴェン）の部分合唱
・ふるさと
校歌斉唱



校長式辞・来賓による祝辞

校長先生 memo

最初はどうかハラハラドキドキでした。
PTA 会長とも相談しながら、「生徒たちの周年行事」を一番のコンセプトに、2年前頃から取り掛かりました。
合唱曲「ふるさと」は、ぜひあの曲をやってほしい!と、私がリクエストしました。

和泉の日

地域貢献委員会のメンバーが中心となり、和泉小学校の児童と一緒に「狛江駅前」や小田急線高架沿いの側道、通称「ふれん通り」で土づくり・花植えなど、地域の植栽活動を行っています。



狛江駅前での花植え活動の様子



三中生と和泉小児童、
皆で仲良く活動



狛江駅前が華やかになりました。



銀杏募金

正門から校舎にかけて続くいちよう並木は、三中のシンボルです。
 ここから採れる銀杏の実を活用し、募金活動を行っています。
 銀杏の実を綺麗にする作業から募金活動まで、
 地域貢献委員会の生徒を中心にやっている、三中の伝統行事です。



三中のいちよう並木



狛江駅前前で募金活動を行いました。
 募金してくださった方に、銀杏の実をお渡しします。



生徒たちの声

大変だったことは？

銀杏を綺麗にする作業は、匂いもあるので大変でした。

やってみてどうだった？

多くの人が募金をしてくれて嬉しかったです。多くの人に銀杏募金を知ってもらえる機会になれば嬉しいです。

今年の銀杏は？

量はあまり採れなかったけど、実が大きくて良い銀杏が採れました。

集まった募金は？

皆で話し合い、今年「子ども食堂」に寄付します。



銀杏を綺麗にする作業も生徒たちで行います。

三中校舎内をご紹介します！



校長室に飾られている
 三中の新しい制服

校長先生 memo

動きやすいデザインになっています。あっという間に2年生の半分位は買ってくれましたし、3年生ももうかなりの数の生徒がこの夏はこの服で過ごしましたね。以前は、白いワイシャツで袖に「狛江三」とアイロンプリントをしていました。今回のシャツは、男女ともこの形で胸にマークを入れています。マークも子どもたちが話し合いながらみんなで考えました。これを決めるのは面白かったですよ。様々な色やタイプがあったのですが、生徒会朝礼でファッションショーをして、投票で決まりました。



生徒たちで決めた
 新しいマーク

校長先生 memo

三中で以前勤務されていた先生が、写真の腕が良い方で、色々な写真を撮ってくださり、今も3か月に1回ほど貼り替えてくれています。写真が貼り替わると、生徒たちも写真を見えますよ。



四季の写真などが展示されている「学校ギャラリー」。
 廊下や階段が、ちょっとした美術館に。

開校 昭和48年4月1日
 生徒数 291名(令和5年5月1日時点)
 所在地 狛江市元和泉1-23-1

教育目標

健康で心の広い生徒
 よく考え実行できる生徒
 学ぶよろこびをもつ生徒

50周年記念式典

とにかく一番のコンセプトは子どもたちの周年行事にしようということでした。大人が集まって喜んでいられるのではなく、子どもたちがいっぱい楽しめ、なおかつ思い出しに残るように、満足感、達成感があるように、いろいろなことを企画しました。

合唱は、当初コロナの影響もあったので、マスクを外して合唱という雰囲気にはなりませんでしたが、基本的には個人の練習のみになるので、teamsを活用し、パーテーションで囲って、ヘッドセットして、画面を見ながらパート練習していました。

そのような状況の中で、当日、子どもたちがあのように堂々と歌えたことが本当に良かったです。

これも子どもたちに話したのですが、一人ひとりがいちものを作ろうと思ってくれたことが良かったのかなと思います。3年生が難しいことに挑戦し、頑張っている姿を見て、2年生が引っ張られて、1年生も「よし、やろうー」という雰囲気が醸成されていました。

私はずっと周年行事の取組

を通じて「三中愛」ということを言い続けてきたのですが、「三中生で良かった」、「50周年にいて良かった」と思ってくれたのかなと。それで本番で気持ちを入れて歌えたのかなと思います。本日に、練習の中を通しても一番素晴らしい合唱だったと思います。

第九を歌うのは平成31年度からの継続事業ですが、これを継続できているのは担当教諭の功績が大きいです。というのも、第九は、指揮であったり、特に伴奏が難しく、ピアノを弾ける生徒がいれば良いのですが、練習するのも本当に大変なんです。それを担当教諭は、生徒にやらせるのではなく、「どうやってみない？」と生徒が主体的に判断できるように促していきます。そうすることで、生徒たちも自発的に努力し、頑張る上級生の姿を見ていた下級生が「僕たちもやろう」と言い出すんだらうと思います。

11月の終わりから12月の初めにかけて、3年生が校長室で面接練習をします。3年間で一番思い出に残った行事や取組があれば1つ話してみてくださいという問いに対して、全員ではないけれど、

「50周年記念式典です」という子が結構いました。歌ったこととか、エコルマホールで行ったこととか、そのようなことが印象に残っているみたいです。ああよかったなあと思いました。

三中生徒に
どのように
育ってほしいか

私なりの解釈になるのですが、今の教育課程や学習指導要領に求められていること、将来の子どもたちの姿とは、「自主的・主体的」に何かに取り組んでいくことだと考えています。やらされている、仕方なくやっていくということではなく、自分で目的・目標を持って、それに向かって自分の力で進んでいくことができる子どもに、大人に育ってほしいです。そのためには、小学校と中学校で基礎的な部分を子どもたちに伝えられたらと思っています。

話し合いの中での自分の考え方をしっかり持っている。変化に気がつくことができる。それが将来的に自分で学びを深めていく大きな力になる

と思っています。そのような力をつけていければ、困難にぶつかってもきつと乗り越えていってくれるだろうと思います。いろいろな壁にぶつかるとは思いますが、そこでへこたれない人に育ってほしいです。

三中を今後
どのような学校に
していきたいか

私の一番の願いは、全ての子どもたちが安心して楽しく通えるような学校にすることです。

そのためには何が必要かといいますが、私はやはり、思いやりだと思っています。子どもたちは学校で様々なことを経験します。その中で上手にいくこともあれば、いけないこともあり、時にはしんどい・辛いと思うこともあるかもしれません。ただ、互いを思いやることができれば、それら乗り越えることができます。全ての子どもたちにとって、安心して楽しい場所として学校があるために、思いやりが

溢れる学校にしたいです。



狛江第三中学校が開校50周年を迎えました

開校50周年を迎えた三中。学校と生徒たちへの思い、今後の展望、三中の特色について、校長先生に伺いました。

三中の特色

三中の特色と言えば、三中独自の行事がたくさんあるということだと思います。

銀杏募金、地域の植栽活動等の活動や話し合い活動が三中の特色と言えます。これらの活動は、ずっと引き継がれて行われています。

銀杏募金

三中独自の行事の中でも特に銀杏募金は、30年以上続いている行事です。持続可能な活動とするため、形を変えながら実施しています。以前は市民まつりで募金活動を行っていましたが、現在は、11月下旬頃に狛江駅前に行っています。

毎年実施される総合防災訓練の中に、「銀杏作業」を組み込んで、全学年で拾い、洗う、という作業を、保護者の方に見てもらおう新しい取組も行っています。

植栽活動

各クラスの2・3名で構成する地域貢献委員会が中心と

なっており地域の植栽活動を行っています。皆やる気があって、主体的に行ってくれています。地域貢献委員会は、常設の委員会です。夏の「和泉の日」の植栽活動、銀杏募金活動の準備、和泉小学校と合同で実施している秋の「和泉の日」の植栽活動を行うなど、年間を通して活動しています。これは、他の学校にない取組だと思っています。コミュニティ・スクールの導入前からやっている活動です。小学生と一緒にやることにより、「君

たちはいいお兄さんとお姉さんでありなさい」「しっかりと教えるんだよ」「優しく楽しくやるんだよ」ということを身につけてもらうことをコンセプトにしています。先輩たちから後輩たちに引き継がれている活動です。

話し合い活動

もう一つ、三中の特徴になっているのが、話し合い活動です。話し合いをすることによって、子どもたちのどんな力が伸びるんだろうというところを探りながら、それをテーマにして、2年間取り組みました。その中で実施したのが、縦割

りでの全校での話し合いです。例えば、体育祭をもっとおもしろくしようよ、という子どもたちの声を活かしながら、じゃあ何ができるかということとを全校で話し合いました。1年生から3年生まで一つのグループになって、そのグループの中で話し合っていて出てきたものをプレゼンして、今度は投票をして、それで決まったものを今年実施しました。

また、銀杏募金で集まった募金の贈り先も、生徒が話し合っていて決めています。話し合いの結果、本年度の贈り先は、子ども食堂になりました。これまでくぼ1234（狛江市市民活動支援センター）にお願いし、市内の子ども食堂に声をかけていたいただいて、集まった募金をお渡しすることになっていきます。これも子どもたちが、今どこが困っているんだろうというのを真剣に話し合いながら考えています。

コロナ禍は慈恵医大第三病院へ、去年は狛江市役所に募金させていただきました。なぜ市役所なのか生徒に聞いたところ、いろいろな問題があったり、学校に予算をつけてくれたりと市役所には本当にお世話になっていてというのが理由でした。

また、第三者評価委員の皆様のアドバイスを受けて、今年は話し合い活動をやる前に、一人ですっかり考える時間を持ち、その後話し合いをするようにしています。

話し合いに臨むにあたっては、主体的に自分から臨んでいって欲しいです。でも、自分の考えが通る、通らないというのはい、話し合いではない。その話し合いをしていく中で、自分の考えが変化していく。それで最終的にみんな結論を出していく。その変化の過程が、子どもたちの成長だと思っています。それを数多く、いろいろな形で経験させることが、この話し合いの一番大きなことかなと思っています。この前の終業式でも、子どもたちにこの話をしました。だから三中は大きく前進したんだよって。

狛江第三中学校 校長
工藤 聡（くどう さとし）



狛江第三中学校第12代校長。町田市・府中市の学校を経験し、平成15年より狛江第二中学校に着任。平成24年より狛江第三中学校、平成30年より狛江第四中学校での副校長の経験を経て、令和2年4月より狛江第三中学校の校長に。狛江では、21年間勤務。

千葉県木更津市で生まれ、杉並区の下井草育ち。

国家公務員の父の影響で転勤族。昭島市、新宿区、石川県の小学校、石川県の中学校、石川県立高校、奈良県の県立高校に編入、奈良県で下宿を経験、大学は東京に。

趣味は野球。かつては年間約40日滑るほどスキーにもはまっていた。最近ではゴルフも嗜む。

中学生の頃の得意科目は、社会と英語。苦手科目は数学。

みなさん、ビーチボールというスポーツをご存知ですか？
えっ？ 砂浜で2人1組で対戦するバレーボールのような…
違います！ それはビーチバレーです！

ビーチボールは、4人1組の2チームが、コート上でネット越しにビーチボールを打ち合うスポーツです。20代、30代の方で、狛江の小学校に通っていた方、子どもの頃にプレーしたことはありませんか？このビーチボール、狛江では盛んに行われていて、今も子ども向けの教室は人気があります。そこで、ガク☆チキでは、狛江市ビーチボール協会会長の富永茂和さん、子どもたちの指導に情熱をそそぐ同協会指導普及部の岩崎純子さん、狛江のビーチボールを牽引してきたお二人に、狛江でビーチボールが広まった経緯などを伺い、ビーチボールの魅力に迫っていきます。

狛江といえどビーチボール 地域に根付いたスポーツへ

ビーチボールを知らない方に、まずはビーチボールってどんなスポーツなの？

富永 ビーチボールは富山県の朝日町で誕生したスポーツです。「いつでも、どこでも、だれでも」できるスポーツとして考案されました。基本的には、身体を動かして健康を維持する生涯スポーツとして取り組まれているのかなと思っています。バドミントンのコートに180センチのネットを張り、4対4で地面にボールを落とさずに3回で相手コートに返す、6人制のバレーボールを4人制に変更したようなイメージになります。生涯スポーツとはいえ競技スポーツの側面もあり、サーブを見たらうとわかるんですが、それ相応にスキルがあって、大変奥が深いスポーツだと思っています。

岩崎 ご年配の方も楽しめるスポーツで、小学校1年生で初めてボールに触れてから、80歳、90歳まで同じボールでプレーするスポーツは他にはないですね。子どもだからと言って180センチのネットを下げることもありません。小さい頃はとて大きく見えたボールも、大きくなってからはアグレッシブに扱えるようになります。ガク☆チキ編集委員（以下、編集） ビーチボールって間口がとて広いんですね。運動の苦手な子どもでも始めやすそうですね。

岩崎 その通りなんです。運動の苦手な子どもが活躍したりするんです。見ていて楽しくなりますよ。

ビーチボールの魅力はボールにあり

編集 ボールが軽く柔らかそうに見えて、誰でも抵抗なく始められそうですね。

富永 確かに柔らかいんですが、まともに当たると結構痛いんですよ（笑）。でも、気軽に始められるスポーツですよ。

岩崎 ボールは27センチになるまで膨らましていきます。ある程度硬さがないといけないので、しわがなくなるまで膨らませます。

編集 ボールの動きがとて変化して、このボールだからこその面白さがありますね。

富永 バレーボールのようにボールがビューンと落ちるわけではなく、ゆっくり落ちるから、人間の習性で最後までボールを追いかけてしまうんです。この運動量は結構あります。見送って「はい、おしまい」というわけにはいかないの、面白いんです。

狛江で盛んなビーチボール。でも、何もなければこんなに広まらないはず。いったい狛江で何があったの？

狛江ビーチボールはじめて物語

岩崎 富山県で生まれたスポーツが、文京区を経由して第一育成*に持ち込まれて、そこからスタートしました。富永会長も私も第一育成に入っていて、第一育成から各クラブに広めていこうという話になりました。

富永 バレーボールやバドミントンなど、様々な団体に落とし込んでいったんです。それを受けて始めたチームが成長していった、チームが増えていきました。タイミングが良かったというのと、ビーチボールを受け入れる土壌があったのかな。とて、これらのチームが集まって、平成14年（2002年）に狛江に1つの大きな団体を設立しました。それがビーチボール協会になります。

*第一育成…狛江市青少年第一育成委員会のこと。青少年の健全な育成をはかるために設置された委員会で、青少年の健全育成に熱意のある地域住人やPTA、民生委員・児童委員などで構成されている。

岩崎さんとビーチボール

岩崎 私は、第一育成に入ってからビーチボールを始めました。もう30年位経ちますが、当時、もっと広めようと思って、私の子どもが通っていた幼稚園の保護者20人位を誘ってチームを作ったんです。それが「友V」というチームの始まりです。

編集 当時でいうママさんバレーのチームが母体だと思っていました。

岩崎 最初は幼稚園の保護者、ママたちの親睦からで、私たちも楽しみたいよねということで始めました。その後、PTAでも取り組んだことがありました。人気があったので、今思うと、なぜPTAに根付かなかったのか、不思議ですね。でも、興味をもった方はクラブに入り、「友V」のメンバーも一時期は50人近くになりました。他のチームも増えてきて盛り上がり、バレーボールよりも大所帯になっていましたね。

ビーチボールを子どもたちへ

富永 ビーチボールを始めた頃、子どもはまだあまりいなかったですよ。

岩崎 子どもたちを楽しませようと、「友V」の有志が子どものチームを作りました。何年か後に、第一育成から一緒にやりましょうと声がかかり、子どもたちがビーチボールを始めるきっかけになりました。さらにその後、協会ができたので、協会に任せて子どもたちの指導をしていくことになりました。

富永 協会の中に、子どもたちに教える育成部門を立ち上げて、うまく活動できるようになったのが大きいです。教育委員会のスポーツ推進委員も教室を開くなど、子どもたちを集めて指導することで競技人口が増えていきました。子どもたちがビーチボールに接する機会を切れ目なく作ることで、ジュニアスポーツとして定着してきたんだと思います。

編集 子どもたちへの指導で気を付けていることはありますか。

岩崎 みんな平等に指導しなくてはけません。うまい子だけ教えるのは簡単ですが、みんなでスキルアップして、楽しめるようにすることが大切です。アヒルから白鳥に変わる子もいます。びっくりさせてもらって、とて楽しいんです。

すべては子どもたちのため

岩崎 私は少々厳しいのですが、それでも、子どもが新鮮に感じて、やりがいを持って取り組んでいると親御さんから言ってもらえています。子どものためなんだということをうまく受け止めてもらえているんだと思います。それが、子どもにも親御さんにも伝わっていて、とて嬉しいです。

編集 今の時代、なかなか岩崎さんのような方はいないですよ。

岩崎 なんでも良いことをすれば褒めるし、悪いことをすれば厳しく指導します。ビーチボールの上手い下手関係なく、ちゃんと片付けができればみんなの前で褒めま

す。そういったことができるのが団体の魅力で、私は上手な子だけが良いとは決して思いません。

富永 ビーチボールを通じて、子どもの成長を助けられれば、嬉しいですね。

もっと広まれ、学校へ、PTAへ

岩崎 台東区など、学校の部活や体育の授業に取り入れている自治体もあります。狛江もそうであればいいと思います。以前、ビーチボールを広めたくて各校の校長先生のところに資料とボールを持って回ったことがあります。前向きに検討してくださり、放課後の遊び場開放につなげてくれた学校もありました。私たちが出向いて行って、そこで教えていたこともありましたが、その時はありがたかったです。

それと、PTAでビーチボールに取り組んでもらえるといいなと思います。PTAのバレーボールはありますが、バレーボールはメンバーを集めるのが大変です。ビーチボールなら、プレー経験がなくても、練習しなくても、誰でも参加できます。大人と子どもと一緒に楽しむこともできるし、年をとってもできる、とて楽しく元気になるスポーツなので。

ビーチボールが国体*のデモスポ**に

富永 想像するに、当時、狛江のビーチボール協会は勢いがあり、まとまりもあって、精力的に活動していたことが認められたんだと思っています。バレーボール少年男子の予選が狛江で行われるのはわかっていました。バレーボールとビーチボールは似たところがあるので、市の国体担当部署から協会に話がきました。そして協会でもやってみようということになりました。

編集 狛江では子どもの大会になりましたね。
富永 最初、デモスポでビーチボールをやりたいと手を挙げたのは狛江だけでした。そうしたら他の自治体からも手が挙がったため、東京都の協会が調整して割り振り、狛江は子どもの大会にということになりました。結果的には、ジュニアスポーツの発展につながったので良かったですね。

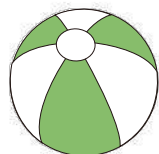
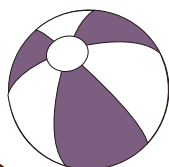
*国体…国民体育大会のこと。ここでは、第68回国民体育大会スポーツ祭東京2013のこと。

**デモスポ…国民体育大会におけるデモンストレーションとしてのスポーツ行事のこと。

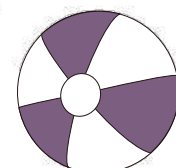
【次のページにつづく】



子どもたちの大会
令和5年度こまCUPのひとつコマ



岩崎さんの熱のこもった指導
こまCUPのひとつコマ



デモスポのひとつコマ
子どもたちの選手宣誓と
富永会長からの表彰の様子

狛江^{とい}はビーチボール

狛江のビーチボールを牽引してきた富永さんと岩崎さん。かれこれ30年以上になるそうですが、ビーチボールにそそぐ情熱は尽きません。そんなお二人のパワーの源は？そして、お二人にとってのビーチボールの魅力とは？



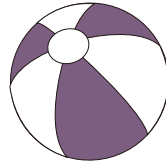
ビーチのためならどこへでも

岩崎 やはりビーチボールが好きということと、子どもも大人も「人」が好きなんです。私は、いろいろなスポーツに携わってきましたが、こんなに楽しく人と関わりながらできる、普段着のまま気軽にできて、汗をかいて帰れるスポーツはそうないと思います。そして、子どもたちのキラキラ輝く目や大人たちが汗をかいて一生懸命頑張っている姿を見ると血が騒ぐんです。嬉しいんです。一歩でも動けるうちは、ビーチボールを続けたいと思っています。それくらいビーチボールと「人」が大好きなんです。ビーチのためならなんだってやりますし、どこにだって行きます。私の周りの人が迷惑しますけれど（笑）。だから、私が元気なうちに狛江にビーチボールを定着させて、PTAにも取り組んでもらうのが私の目標なんです。

楽しく笑顔でワイワイと

富永 身体を動かして、思いっきり汗をかいて、仲間と一緒にワイワイやりながら笑顔で楽しくできる、最高のスポーツじゃないかなと思っています。目くじら立てて

やるのではなく、4人が笑顔でコートに入って楽しくできる、仲間づくりができるのが魅力だと思います。例えば、地域に知り合いがいなくて孤立している方も、ひとたびチームに入れば、みんなで楽しく身体を動かして健康維持と仲間づくりができる。こんなこともビーチボールに求められているところだと思います。また、少しずつレベルアップしていく快感もあります。少人数で競技性が強いスポーツは、どうしてもギクシャクしてしまう時があります。4人だと笑顔で楽しくできます。みなさんぜひ一度、ビーチボールをプレーしてみてください。【完】



写真は左から富永茂和さん、岩崎純子さん、狛江市体育協会常務理事・事務局長の長山裕子さん

狛江市では「地域とともにある学校」を目指して、令和4年度から全小中学校でコミュニティ・スクールを導入しました。

各ゾーンと所属校



コミュニティ・スクールとは

学校をとりまく地域や家庭すべての方々に関わっていただく仕組み。学校が中核となり、学校運営への地域住民等の参画を促進し、特色ある学校づくりを進めます。

狛江市は、コンパクトシティの利点を生かし、中学校区（ゾーン）ごとに学校運営協議会を置き、小中連携を大切にしたコミュニティ・スクールを推進しています。

「コミュニティ・スクール通信」を発行しています。ぜひご覧ください！



発行者

狛江市教育委員会
〒201-8585 狛江市和泉本町一丁目1番5号
TEL 03-3430-1111 (代表)
<https://www.komae.ed.jp>

こちらからもガク★チキが閲覧できます！

狛江市教育委員会
ホームページ



こまえ電子図書館

